

今井 功 先生のご逝去を悼む

今井 功先生は本会日本地学史編纂委員会委員長としてご活躍くださっている最中の2006(平成18)年3月25日、ご自宅のある岩手県盛岡市において胆管癌のため逝去されました。享年80歳。謹んでお悔やみ申し上げます。

今井先生に初めてお目にかかったのは、代々木・参宮橋の小林貞一先生のお宅でした。1972(昭和47)年6月のことです。その年の本会総会で日本地学史資料調査委員会の設置を提案され、設立の承認を得た小林先生に、要員として今井先生と私を呼ばれました。当時の地質調査所長小林勇氏に、小林先生が地学史に詳しい人の推薦を乞い、選ばれたのが今井先生とうかがっております。他方、私は国立国会図書館参考書誌部科学技術課に勤務し、同館科学技術資料整備審議会の事務を担当していて、審議委員の一人小林先生のお目に留まったようでした。大学で地史学を教わった者でしたから畏まって承った次第です。小林先生の下で二人は委員会の進め方につき、いろいろご指導を受けました。その後も数回、小林先生のお宅へ、次の委員会の前の週に招集され種々のご指示を頂きました。たとえば全国の地学関係機関にどのような資料があるかアンケート調査をする方針が示されると、アンケート案を準備するのが私たち幹事に与えられた仕事でした。委員には岡山俊雄、川上喜代四、木村敏雄、諏訪彰、湊 秀雄の諸長老が就任され、1976年には渡辺武男、77年には後閑文之助・土井正民の諸長老が招かれ参加されておられます。委員会は13年掛けて、地学史文献集3種、坪井誠太郎・小牧実繁氏らの昔日談8種などを仕上げ、それぞれ『地学雑誌』に報告掲載しましたが、1984年3月同委員会は解散し、長期的積み上げを要する地学史文献目録総覧や地学者伝記集成等は未完成に終わりました。

この段階で中絶とは「画龍点睛を欠く」ではないかと、総務担当の坂倉勝彦理事に今井先生と私で委員会打ち切りを抗議しましたところ、底無し沼の資料調査はもう認めないが、地学史編纂なら



期待すると言われ、坂倉理事が委員長を自ら買って出て下さり、新委員会「日本地学史編纂委員会」が1985年8月に設立されました。委員には資料調査委員会から引き続く土井・今井・石山に加え、黒田和男氏を迎え出発しましたが、同年12月坂倉先生が逝去され、替った土井先生も翌年8月亡くなられました。以来20年、今井先生が委員長として先頭に立たれ、1992年から毎年調査結果を『地学雑誌』に発表し、新たに地球物理学分野から藤井陽一郎氏、この委員会担当理事の立場から独自の関心を示され参加の垣見俊弘氏(1998年度まで)、さらに若手研究者八耳俊文・谷本 勉・山田俊弘の諸氏の委員会加入を得て、明治初年から漸く第二次大戦末まで掲載し終ったところでした。この地学史の内容・形式ともに各委員の提言や提出原稿を基にしていますけれども、最終的に今井先生の裁定に従って纏められて参りました。もう残り戦後史のみの段階で、有終の美を飾れなかったのは真に惜しまれます。

今井先生は1925(大正14)年10月20日愛媛県松山市でご出生、厳父は『地層学』の著者として知られる地質学者今井半次郎氏であられます。1947年早稲田大学専門部鉱山地質学科を卒業後、直ちに地質調査所に入られ一貫して地質図幅作成に活躍されました。5万分の1基本図調査(唐津、伊万里ほか)から20万分の1地質図(静

岡ほか)、50万分の1地質図(金沢、鹿児島)、100万分の1全国図、さらには地質鉱産誌付図の200万分の1図から500万分の1図編集まで各級の地質図作成にタッチすることが出来たのは幸福だったと語っておられました。殊に100万分の1『日本地質図第2版』(1978)の編集には3人の常任委員の一人として腕を振るわれた由にございます。1962年には『北海道日高沿岸地域の第三系構造発達史』研究で北海道大学から理学博士の学位を受けておられ、第三紀層の構造地質学を得意とされました。

早くから地学史に関心を寄せられて造詣深く、『地質ニュース』誌連載研究記事を再編し『黎明期日本の地質学』(ラティス1968)を刊行、別に『科学の実験』誌連載講座記事を纏め、新鮮なテキストブック『地球科学の歴史』(片田正人氏と共著 共立出版1978)を出版されて、それぞれ好評を博されました。江戸時代の岩石鉱物研究家・木内石亭著『雲根志』(復刻版 築地書館

1969)の訳注・解題者であり、幕末来日したアメリカ人地質学者パンペリー著『日本踏査紀行』邦訳(雄松堂1982)の地質鉱物関係事項指導などもなさいました。『地質調査所百年史』(1982)の中心的編纂委員を務められ、『国立科学博物館百年史』(第一法規出版1977)収録展望記事や『日本の地質学100年』(日本地質学会1993)掲載地質学史年表等も重要な寄稿であります。1982年10月岩手大学教授にご就任、盛岡へ移られましたが、研究に、教育に努められ、1991年定年退官後も県下の地学普及活動等も続けられ、近年は国際地質学史委員会・日本委員会委員長を担当して来られました。2001年には日本地質学会名誉会員に推挙されておられます。

日本地学史編纂委員会では、残りの部分を着実に完成させ、早く今井先生の霊を安んじたいと存じます。今後とも各方面のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

(石山 洋)